

プロローグ

スタジオジブリとの思いで

一般財団法人日本グラウンドワーク協会 理事長 中里良一

「農業農村整備事業(農林水産省公共事業)、知っていますか?」ということスタジオジブリの幹部に聞いたところ、「知りません。農業用ハウスや住居整備に関する事業のことですか。」という返事でした。

かつて、私は宮崎駿監督とジブリの敏腕プロデューサー鈴木敏夫氏にダム湖の周辺環境保全について協力をお願いをしたことがあります。その時の模様を紹介します。

JR中央線「東小金井駅」から歩いて10分のところにスタジオジブリの事務所があり、そこから歩いて5分のところに宮崎監督のアトリエがあります。東京にあるとは思えないほど緑に囲まれたログハウス調の雰囲気のある建物です。宮崎監督の自然を愛する気持ちがにじみ出ています。水や森やそこに棲む生きものたちを題材にした作品と制作活動の場がマッチしています。

アトリエのゲストハウス。私の目の前には、宮崎監督と鈴木氏が座っています。「ダムは自然破壊の公共事業の代表格である。」、「技術屋はすぐ構造物を造りたがる。まず、構造物の建設ありきで物事をすすめていく。」、「みんなで水源地の自然環境を守りたい?それならそもそも自然環境を破壊するダム建設を止めればよい。あなたたちが破壊した後の自然をみんなで守りましょう?あなたたちが守ったら、誰も協力しないよ。環境に配慮した公共事業は詭弁。」、「あなたは、ひとつひとつ反論しているが、それはいつも聞く事業推進者の論理。事業を進めたいためのヘリクツにしか聞こえない。」…2時間もの間厳しい発言が続きました。

「私はサンドイッチマンになるつもりはない。君との話し合いで2時間もの貴重な制作時間を無駄にした。話はこれで終わり。もう来ないで欲しい。」と宮崎監督に言われアトリエを後にしました。久々に大落ち込みし、東小金井駅に向かう足どりは重いものでした。

後日、ジブリを紹介していただいた俳優の菅原文太氏のこの顛末を報告すると、「中里君、良かったじゃないか。宮崎監督は滅多に講演はしない。それなのに君は贅沢にもひとりで、宮崎監督の話を、それも2時間も聞くことができたのだぞ。」と妙な慰めをしていただきました。しかし、ジブリとの交流は今でも続いています。



➤ トトコの森



➤ トトコの森の保全活動

能登半島地震を通して思うこと

石川県立大学 生物資源環境学部 1年 佐藤結理

1月1日16時10分、マグニチュード7.6最大震度7の地震が石川県能登地方を襲いました。お正月ということもあり私は地元である静岡に帰省していましたが、急にテレビで地震速報が流れ始め、リアルタイムで画面に映る家が次々に崩れていくのを見たとき、恐ろしくて呆然としてしまいました。私はこの地震を通して、私は特に次の二つのことについて学びました。

一つ目は地域のコミュニティづくりの大切さです。今回の地震では、地震による道路の亀裂や液状化によって道路が寸断され、能登の多くの地域が孤立状態に陥りました。これによって、自衛隊などによる救助や支援が遅れてしまいました。しかし、この地域では普段からの人々のつながりが築かれていたため、行政による助けがなくても地域の人たちがお互いに支えあって避難所での生活を乗り越えていました。もしも日頃から人間関係を気づいていなければ、いざ、このような状態に陥ったときお互いに励ましあったり助け合ったりすることは難しいと思います。挨拶をしたり、地域の行事に参加したりするなど小さなことでも普段から意識して行動して地域の人たちと交流しておくことは大切だと改めて感じました。

二つ目は地震に事前から備えておくことの重要性です。地震はいつどこで起こるか正確に予測することは不可能です。そのため、事前に備えておくことが非常に大切になります。特に今回の地震では前文で述べたように孤立した地域が多く発生し、電気や水道が通らなくなり支援物資もなかなか届かなかったため、トイレ問題が非常に深刻になりました。また、冬の寒い時期であったということもあり、トイレなどの日用品や食料品以外にも防寒用シートやブランケットといった防寒グッズを用意しておくことも必大切であることが分かりました。基本的な防災バッグを用意しておくだけでなく、自分の住んでいる地域の気候や家庭など、それぞれの事情に合わせて防災グッズをそろえておく必要があるということを学び、これを機に、私も防災用品を見直しておきたいと思いました。また、防災用品だけでなく、避難経路や家族との連絡の取り方などを確認しておくことも、スムーズな避難を行うために大切であると思いました。

日本にいつ来てもおかしくないと言われている大規模地震の一つに南海トラフ巨大地震があります。私の住んでいる静岡県は、南海トラフ巨大地震による被害が非常に大きくなると言われている県の一つです。小学生の頃、実際に南海トラフ巨大地震が起こったときに日本各地でどのような被害が起こるのかをシミュレーションした動画を見たことがありますが、トラウマになるほど怖かったことを今でも覚えています。地震が起こらないようにすることは不可能ですが、大きな地震を想定して事前に備えておくことで被害を小さくすることはできると思います。今の自分にできることを考え行動していきたいです。

最後に、能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また一日にも早い復旧をお祈りいたします。

大学生による白米千枚田の保全活動の応援

「農業農村を応援する大学生サークルネット」(10大学)では、加盟大学生サークルの連携により、能登半島の世界農業遺産・白米千枚田(石川県輪島市)の保全活動を応援してきました。

このたびの能登半島地震により、白米千枚田及び保全活動を担っています白米千枚田愛耕会のみなさまが大きな被害を受けられました。

白米千枚田愛耕会からの要望もあり、日本グラウンドワーク協会では大学生や企業等と連携して、白米千枚田の復旧、その後の保全活動の応援のために、「グラウンドワーク能登応援隊」の組織化を検討しています。



行こうよ！水土里の旅！

□ 通潤橋(熊本県上益城郡山都町長原)



ご存じの方も多いと思いますが、熊本県にある通潤橋(通潤用水)はその歴史的重要性から数々の指定を受けています。特に土木構造物としての国宝指定は全国初です。

1960年：国の重要文化財
2006年：疏水百選
2008年：重要文化的景観
2014年：かんがい施設遺産
2023年：国宝

現在では小学校の教科書にも掲載されています。

通潤橋の放水は4月から11月にかけて行われていますが、灌漑期には農業用水として利用するため放水を停止することもありますので、放水スケジュールを事前に確認してから訪問の予定を立てることをお勧めします。



通潤橋には熊本市内から車で約1時間、公共交通機関を使用して約2時間でアクセスできますが、県外からお越しの方には是非とも熊本空港からレンタカーを借りて、阿蘇の雄大な景色を見ながらのドライブをお勧めします。

熊本空港から阿蘇山噴煙展望公園まで直行して約1時間、そこから通潤橋までも大体1時間ちょっとで到着します。

ミルキーウェイをドライブして、おなかが空いたら名物のあか牛丼やソフトクリームを味わうのは最高です。

阿蘇近辺には温泉も多くあります。ドライブに疲れたらゆっくりお風呂に入るのも素敵ですね。



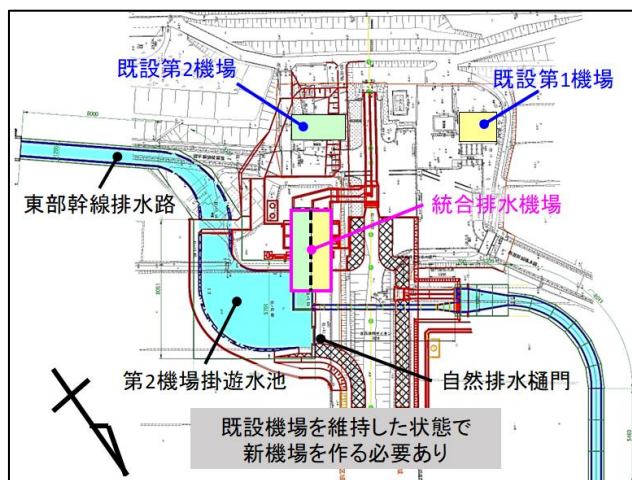
農業土木技術—プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術—プロの仕事」。第一回は農業土木の建設コンサルタント業務から、排水機場の統合に伴って行った模型実験の様子をご紹介します。

1. 既存機場の統合計画

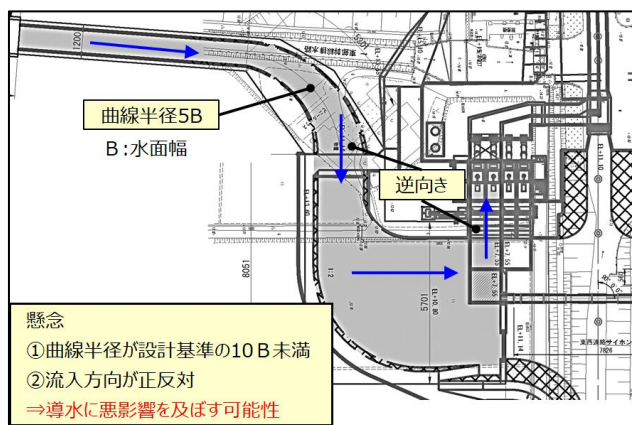
右の図に示すように、既設の第1、第2機場を一つの新しい排水機場(統合排水機場)にすることを計画しました。

古い施設の更新タイミングで、そもそもの施設配置から大きく見直すことで、維持管理面からも効率的な施設配置の実現を目指しています。



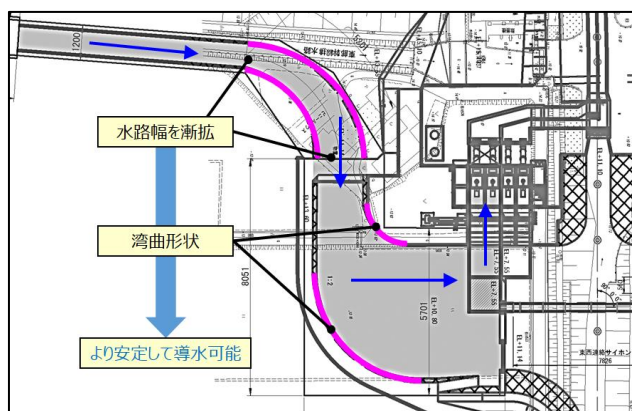
2. 統合にあたっての懸念

既存施設の更新にあたっては用地上の制約から課題が発生することも多々あります。例えば水路を急に曲げると溢水等の原因になりますが、今回の統合にあたっては、排水機場に導水してくる幹線排水路、および遊水池の形状が安定した導水の観点から懸念点となりました。



3. 対策と模型実験による検証

そこで、水路幅を拡張し、遊水池の形状も大きく湾曲するような形にすることで安定した導水を実現することを計画しました。計算上は問題なかったのですが、地域を守る重要な施設であることから、大規模な模型を作成し、実際に水を流して実験を行うこととしました。



実際の模型実験の様子を映した動画を以下のリンクから是非ご覧ください！

・模型実験動画

[2023_SANSUI_MOKEI.mp4](#)

コンサルタント会社はデスクワークが多いイメージがあるかもしれませんが、精度の高い設計を行うために実地検証も有効な手段となっています。

「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

□ 静岡大学 棚田研究会

静岡大学 棚田研究会は、菊川市の千框の棚田を、地元の方々やオーナーさんと一緒に管理するサークルです。



1月の寒い時期から、畦を補修・整備し、水路を整えて田んぼに水を引きます。
産卵するために出てきたニホンアカガエルを観察することができます。

あぜ道アート

通水した田んぼのあぜ道沿いに、火を灯したろうそくを1本1本手作業で刺していきます。夜になるとシンボルの桜の木がライトアップされ、息を呑むほどに美しく幻想的な景色が一面に広がります。



春～夏

春になると、代掻き、田植えをします。夏の間は、雑草の管理が特に大変ですが、昼ごはんの流しそうめんや、ご褒美のかき氷を楽しみに、一生懸命草刈りをします。

田んぼではシュレーゲルアオガエルや水生昆虫、水路では小魚が見られます。子供たちを集めて有識者による「生き物教室」が開かれます。

収穫～冬

10月、半年間 大切に育ててきた稲を収穫します。澄んだ青空の下に広がる、黄金色の稲穂の絨毯がとても美しいです。

11月、収穫した稲は乾燥させた後、脱穀します。
冬は、茶草場農法の体験や、しめ縄作り、そば打ち体験をします。自分で打ったそばが、お昼ご飯となります。焼き芋や焼きエビせんなども貰えます。



「農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。フォロー歓迎です！
<https://www.instagram.com/groundworkassociation.jp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324

Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。